

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活（介護）をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。人に優しい町（まち）づくりの考えが、地域に根（ね）を張り、広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちのね」活動を開催しています。
事業所名	こぶし園 小規模多 機能型居宅介護三和	管理者	廣川 丈人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	1人	人	3人	人	7人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に合わせてまちのねを開催し、推進委員の方々からも地域への発信に協力を頂けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> まちのねは運営推進会議とは別に開催となっているが、毎月開催できている。 参加者は固定化されており、新しく参加される方がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の動きや環境を見ていて、業務改善に取り組む姿勢が見受けられる。 三和地域だけでなく、左近地域への発信も力を入れ、地域への介入が課題と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> サポートセンター三和を知って頂くために三和地域、左近地域の行事への参加を積極的に行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関や敷地内の環境設備を行う。 インターホンの案内を分かりやすいものに変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> インターホン部に説明書きを貼っており、インターホン越しに話して下さる方も多い。 目に見える生活環境部分の美化に努め、整理整頓を意識した。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の環境整備がされており、入口も改善がなされている。 新しい事業所も併設されると伺った。その際に新しい看板を取り換えた方が良いと思う。知らない人は無いサービスもあるように思われてしまうのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業も開設したので、看板に代わる玄関のレイアウトを検討し誰でも入りやすい入口を検討していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> サポートセンターの紹介を作成し、回覧板で回す。 	<ul style="list-style-type: none"> まちのねの開催の案内を中心に回覧板を利用し、情報を流している。まちのねの参加者を見ても回覧板の効果を感じにくい部分もある。 実際に店舗に出向き、案内を説明し置かせて頂く事が出来た。 ハイツの方が外出され、保護されることもあったため、基本情報を作成し、保護への協力を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 左近地域は回覧板の閲覧が消極的な地域であるので、いかに発信させていくかが課題だと思われる。 近隣店舗への協力を行ったことは見守りの目が増える事としても良いことだと思われるので、繋がりを大事にしてほしい。 地域の福祉窓口として認知してもらえる様に発信していくことで、まちのね等の参加率向上につながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板でまちのね等宣伝の継続を行う。 地域の町内会長、地域の方へのサポートセンター三和の認知をしてもらう。 近隣店舗との繋がりの継続化をしていくために行事などへの介入を図る。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に目を配り、訪問や送迎等で心配な方がいないか意識していき、必要に応じて支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三和地区民生員五十嵐様を中心に民生員と連携を図るように心がけている。民生委員の会合などの場にも参加できるように働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって参加への考え方が違い、受け入れに関して消極的な地域もある。参加する為には参加して伝えたい内容や主旨の説明をしっかりと行い、顔を合わせる回数を重ね関係性を構築して行くことが大事になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として地域に周知していただけるよう行事への参加、散歩の実施を行い、地域の方との交流を行える機会を設けていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の近隣地区の民生委員さんからも運営推進委員への協力を願い、地域の情報収集や必要に応じて事例検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんからの情報を活かしながら地域へのサービスに繋げていきたい。 ・三和・左近地域の町内会長に事前に連絡を取り、直接挨拶をさせていただく。地域によって反応は様々だったが、関係性を構築して行く一歩となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三和・左近地域の各家庭での問題は内在化しており、本当に困ってから相談に来るケースが多い。サポートセンター三和が地域において、社会と繋がりを持てるような福祉施設としての存在になるとありがたいと思う。 ・栄養士会の話は実現できると良いと思う。栄養士会で話が出れば、それも小規模等の宣伝にも繋がる。栄養士会も積極的に動いている話も伺っているので、ぜひ連携して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三和、左近地域の町内会長様、民生委員様、包括支援センター職員との関わりを持ち、地域の情報収集を行える関係性の構築を行う。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の一角に福祉避難所としての案内を載せていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の避難訓練の実施 ・広報紙を作成し、町内会に配布を行っている。 	<p>三和地域に防災組合が無いが、地域の方々にも防災関係での連携が図れると良いと思う。</p> <p>地域性を考慮し町内会だけではなく、近隣に店舗が多い事から連携を図っていく事も効果的な対策だと思われる。</p> <p>災害時の備蓄はどれだけあるか。地域の福祉避難所として地域の備蓄まで補える蓄えが用意できているか。川の側に立地している施設なので水害時には弱いような気がする。サテライト事業所でもあるので災害時の対応には限界もあるかと思うのでまずは逃げる事を優先に考えた方が良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有事に対応できるように普段からの業務に防災への意識を持ち、支援を行う。地域の協力を得られるように近隣店舗への声掛けなどを行っていく。